

総長特別表彰授与式を挙

「JIG-SAW×北海道大学 奨学金」受給者の決定

大学力強化ワークショップを開催





総長特別表彰授与式を挙



北海道大学におけるベルギー・デーを開催

全学ニュース

- 1 総長特別表彰授与式を挙
- 2 春のガレージセールを開催
- 3 北海道大学におけるベルギー・デーを開催
- 4 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- 7 「JIG-SAW × 北海道大学 奨学金」受給者の決定
- 8 大学力強化ワークショップを開催
- 9 令和8年度北海道大学新任技術職員研修を開催
- 10 ハワイ姉妹州サミットで北大ブランドを紹介
- 11 「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！vol.6」に参加
- 12 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 講師が講義を実施
- 15 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 2025年度の事業を終了～31名の教員が17校で講義を実施
- 16 第2回クラスアワー「学生サポートガイダンス」を実施
- 17 博士人材と企業の情報交換会第61回「化学・バイオ系赤い糸会」を対面で開催
- 18 企業人事担当者が語る「北大生採用のリアル」 オンラインパネルディスカッションを開催
- 19 インターンシップ選考対策講座（文系編・理系編）を開催
- 20 キャリアデザインセンター主催 業界研究ガイダンス「食品業界編」「総合商社編」を開催

部局ニュース

- 21 低温科学研究所の青木 茂教授らが参加した 第67次南極地域観測隊が無事帰国
- 22 環境健康科学研究教育センターがWHO本部訪問及びWHO協力センター・グローバルフォーラムに参加（WHO連携国際環境健康拠点の構築）
- 23 看護の日のイベントを開催

表敬訪問 24

人事 25

- 25 新任教授紹介

資料

- 26 在籍学生数（令和8年5月1日現在）
- 28 令和8年度外国人留学生数（令和8年5月1日現在）
- 29 令和8年度国別外国人留学生数（令和8年5月1日現在）



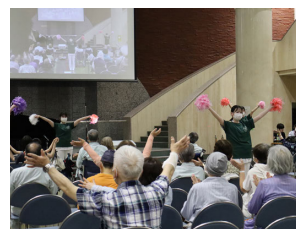
令和8年度北海道大学新任技術職員研修を開催



「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！vol.6」に参加



低温科学研究所の青木 茂教授らが参加した第67次南極地域観測隊が無事帰国



看護の日のイベントを開催

表紙：総長特別表彰授与式を挙（関連記事1頁に記載）

裏表紙：キャンパス懐古⑩ 農学部本館屋上から望んだ農場（1989年6月）

■全学ニュース

総長特別表彰授与式を挙げる

5月13日（水）、事務局において、総長特別表彰授与式を挙げるし、寶金清博総長から北大古座川町共育サークル「ワタリドリ」に表彰状が授与されました。

ワタリドリは、和歌山研究林での実習を契機として令和7年9月に結成された学生サークルで、長期休業期間を利用して和歌山県古座川町平井地区に滞在し、高齢者宅での生活支援ボランティアなど、地域に根ざした活動を継続しています。札幌でもイベント等を通じて地域の魅力発信に取り組んでいます。

今回の表彰は、同サークルの学生が、3月15日（日）に同地区で発生した住宅火災の際、人命救助及び避難誘導等に尽力したことに対して行われたものです。学生たちは、地域住民との

日頃からの信頼関係を背景に、緊迫した状況下で冷静に行動し、人命の救助に貢献しました。

授与式には、火災当日に人命救助及び避難誘導を行った6名と、それ以前の活動を通じて、当日の円滑な避難につながる関係構築に寄与した3名が出席し、寶金総長、網塚 浩理事・副学長、吉田俊也北方生物圏フィールド科学センター副センター長及び木谷慎一学務部長の列席のもと執り行われました。

寶金総長は挨拶の中で、今回の人命救助に対し地域から感謝の声が寄せられていることに触れるとともに、今回の経験が今後活かされることへの期待を述べました。

なお、この度の授与式の出席者は、以下のとおりです。

総長特別表彰授与式 出席者

北大古座川町共育サークル

「ワタリドリ」

農学部3年	赤 田 隼 人
農学部2年	西 村 朋太郎
農学部3年	松 田 幸 祐
理学部3年	高 野 拓 真
水産学部3年	齊 藤 涼 雅
法学部3年	藤 原 加 伊
法学部3年	江 藤 弘 美
法学部3年	大八木 悠 嗣
農学部3年	白 井 裕 基

(学務部学生支援課)



授与式の様子



授与式での記念撮影

春のガレージセールを開催

5月12日（火）、クラーク会館において、恒例の「春のガレージセール」が開催されました。本ガレージセールは、教職員の妻及び女性教職員で構成される北海道大学国際婦人交流会が、春と秋の年2回実施しているもので、留学生や外国人研究者に対し、日常生活に必要な物資を手頃な価格で提供しています。

当日は、初夏を思わせる好天に恵まれ、開場前から多くの留学生らが列を

作りました。来場者は約350名にのぼり、会場は大いに賑わいました。電気ポットや炊飯器、電子レンジなどの調理家電や食器類、スーツケースが特に人気を集めたほか、フライパンなどの調理器具や人形、雑貨コーナーにも多くの来場者が訪れ、活気あふれる催しとなりました。職員の皆様におかれましては、多くの物品をご提供いただき、心より御礼申し上げます。

なお、秋のガレージセールは10月上

旬の開催を予定しています。開催に先立ち、物品提供のご協力をお願いする予定です。特に冬を迎えるに当たって季節に合わせた布団やコートなどをご提供いただけますと幸いです。同会によりますと、市内であれば集荷にも対応しているとのこと。引き続き、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

（学務部学生支援課）



開場前から長蛇の列を作る留学生



無料コーナーの様子



多くの来場者でにぎわう会場



人形も人気

北海道大学におけるベルギー・デーを開催

5月12日（火）、アントワン・エヴラー駐日ベルギー王国特命全権大使をお迎えし、ベルギー・日本友好160周年を記念した「ベルギー・デー」を開催しました。

フロンティア応用科学研究棟の鈴木章ホールにおいて、「Driving Change in Gender Inclusivity: Insights from Belgium」をテーマに講演会を開催しました。エヴラー大使からは、ベルギーの政治分野における女性の参画を促進する政策とその課題について講演していただきました。また、本学薬学部卒業生であり、現在ユーシービージャパン株式会社代表取締役社長を務める

菊池加奈子氏からは、ビジネスの現場におけるジェンダー・ダイバーシティと、多様な人材が活躍するための取り組みについて講演がありました。さらに、ベルギー・フランダース政府貿易投資局日本事務所代表のディルク・デルイベル氏から、1866年にベルギーと日本間で締結された友好通商航海条約の背景についてお話しいただき、参加者は本イベントの意義への理解を深めました。

講演後は、公共政策学連携研究部の池畑周直美教授による進行のもと質疑応答が行われ、「日本とベルギーの文化的な違い」「ベルギーのモデルを日

本に適用する可能性」「STEM分野と雇用」などについて活発な議論が交わされました。

また、講演会に先立ち、エヴラー大使は文学研究院、保健科学研究院及び環境健康科学研究教育センターを訪問し、フランス語関連科目を学ぶ学生との交流や研究者との意見交換を行いました。最後に寶金清博総長及び石塚真由美理事・副学長との懇談が行われ、今後の両国間の交流について意見交換が行われました。

（国際部国際連携課）



文学部の学生との交流



保健科学研究院及び
環境健康科学研究教育センター訪問



講演者、石塚理事・副学長、池畑教授 集合写真



寶金総長とのギフト交換

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をするとしています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	(4月30日現在) / 60,725件	11,435,816,405円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	(4月30日現在) / 23,677件	5,271,047,848円

<ご寄附状況>

4月は337件38,294,802円のご寄附を賜りました。そのご厚志に対しまして、心より感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます（五十音別・敬称略）。

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アンビエンテ丸大、エア・ウォーター株式会社、エーワイハッピー株式会社、大久保京介株式会社、株式会社ウエルログ、一般財団法人協済会、CLEARMARKET、一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会、有限会社SATTO、社会医療法人医翔会札幌白石記念病院、株式会社敷島屋、JIG-SAW株式会社、医療法人スワンアイクリニック、セブナイレブン北海道大学工学部店、Soare.、一般社団法人ネクシスLabo、NOELhair、美容室ダルテ、平井医院、ふたごザン、プレイス、ヘアメイクロジー、株式会社北海道技術コンサルタント、糞島珈琲ムッシュ、株式会社ムトウ、有限会社村井新聞店、もぎ歯科クリニック、薬膳スープカレー忍者、ユウセン合同会社、株式会社ルピシア、医療法人令徳会ユアーズデンタルクリニック

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青井 良平	青木 俊介	明石英一郎	浅田 敏文	浅沼 佳南	浅野 智裕	阿部 俊夫
阿部 直樹	阿部 雅史	安部 優里	甘利 稜馬	荒川真理恵	有川 二郎	池田 雄二	石井 哲夫
石井 伸明	石井 紀	石野 悟司	泉澤 正行	伊藤 雄三	井野 智	井上 将希	井原 博
今井 四郎	今井 晋	今井 久雄	今津 晃	入澤 秀次	岩澤 悟	岩本 裕恵	上田 誠大
梅津 邦夫	梅村 渉	梅本 由佳	縁記 和也	猿渡 晴久	遠藤 公憲	大石 修	大久保鋭子
大久保幸子	大久保 剛	太田 裕美	大畑 昇	大原 正範	小笠原浩平	岡田 英子	沖崎 遼
小田原一史	鬼澤 正志	小原 大和	金川 聖也	金川 眞行	金子まなみ	金原 香織	上村 明男
蒲原 幸男	河本 充司	木曾 真紀	木滝 俊郎	衣川 暢子	君島 崇	KIM DAEIL	木山 邦樹
桐澤 力雄	久々湊 聖	倉内 菜々	庫山 華香	栗田 明	栗原 誠治	黒崎 英樹	上月 浩
小千田圭吾	小丹枝利昭	小林 賢人	小林 次郎	小林 伸一	今野 孝宏	齋藤 憲一	齊藤 晋
齋藤 久	境 政人	坂本 大介	崎元 大志	佐藤壮一郎	佐藤 暢男	佐藤 義孝	佐野 将義
三升畑元基	志済 聡子	清水 修	清水 文彦	下谷真智子	城野菜津子	白石 陽一	新宅 信雄
菅原 新也	杉江 和男	杉山 葵	鈴木 祥真	鈴木 貴之	鈴木 正司	関川 哲夫	関崎 勉
曾村 尚明	高井 保秀	高島 郁夫	高瀬 明	高瀬登志彦	高瀬 浩之	高見澤一裕	田栗 和奈
多々納玲子	田中 栄治	田中 和裕	玉置アツコ	田村 紗織	辻 英幸	對馬 新	寺島 光雄
筈 哲夫	友永 章雄	豊田 威信	鳥潟 肇	仲 裕	中井 啓之	中根 裕司	中野 功司
成田眞利子	西田 和代	根本 叔治	野田 岳志	畠山 酉季	花田 秀一	早河 輝幸	原 啓介
原田 祐司	半崎 貴敏	廣重 勝彦	福井 睦子	福永 悟郎	藤井 治也	藤澤 裕子	藤田 満
藤田洋一郎	藤田 芳康	藤原 明	本間 彰	前川 秀基	松井 耕二	松浦 善治	松岡 謙二

松代 弘之	松原 謙一	三浦 邦弘	三木 證永	湊 敬廣	宮田 信幸	村上 広輝	村瀬徳啓充
村本裕紀子	柳内 幹王	山崎 清	山崎 昭治	山田 哲	余湖 兼右	横山 考	吉井 皓太
吉川 真悟	吉田 香織	吉田 広志	吉成 久和	依田 恵	Liu Steven	若目田 篤	和久津和洋

<寄附者への特典>

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年度9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください <https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/>）。

<感謝状の贈呈>



宮川昌樹様（令和8年4月16日）



河野裕規様（令和8年4月24日）



一般社団法人札幌農学同窓会様
（令和8年4月27日）

<紺綬褒章の伝達>



大出孝博様（令和8年4月13日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff/>

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室 基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室 基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室 基金事務担当までご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室 基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済・PayPayでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室 基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

「JIG-SAW×北海道大学 奨学金」受給者の決定

5月19日（火）、学术交流会館において、「JIG-SAW×北海道大学 奨学金」の受給者を決定する選考会を開催しました。

本奨学金は、北海道大学の基本理念であるフロンティア精神を体現し、新たな挑戦に踏み出す学生を支援することを目的に、JIG-SAW株式会社の支援により新設された給付型奨学金制度です。学術・研究分野に限らず、文化・芸術、スポーツ、ボランティア、学外活動など、学生生活におけるあらゆる挑戦を対象とし、使途自由、返済不要の100万円を一括で給付する点が特徴です。

今回は約3,300名の応募があり、抽選により選考会参加者500名を選抜しました。選考会では、JIG-SAW株式会社取締役の鈴木博道氏から、本奨学金制度に込めた思いや、挑戦する学生への期待について説明がありました。また、代表取締役の山川真考氏からは、挑戦の内容や分野に優劣を設けず、学生一人ひとりの意思を等しく後押しするため、抽選という選考方法を採用した趣旨が示されました。

その後、司会を務めた海老原優香フジテレビアナウンサーをはじめ、網塚浩理事・副学長、山本文彦副学長/教育イノベーション機構学生相談支援セ

ンター長、長谷川康弘副学長、学務部学務企画課大学院教育改革推進室の土井将義専門員が抽選を行い、受給者5名が決定しました。

受給者は今後、研究、進学、就職準備、海外渡航など、それぞれの目標に向けた挑戦に取り組む予定であり、定期的な活動報告を行うこととしています。なお、本奨学金制度は来年度も実施予定です。今後も学生の主体的な挑戦を後押しする取組として継続していきます。

（社会共創部広報課卒業生・基金室、学務部学務企画課大学院教育改革推進室）



受付の様子



抽選券を手に開始を待つ参加学生



抽選する網塚理事



受給が決定した5名

大学力強化ワークショップを開催

5月29日（金）・30日（土）に、大学力強化ワークショップを開催しました。本ワークショップは、令和10年度から始まる第5期中期目標期間に向け、我が国の最新の政策動向や本学が進むべき方向性を踏まえつつ、今後の大学経営、教育研究、組織の在り方等に関する理解をさらに深めるために開催したもので、寶金清博総長をはじめとす

る執行部、各部局等の長、事務局各部の長など計45名が参加しました。

1日目は、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課の村尾 崇課長及び寶金総長による講演の後、グループワークを行い、大学の機能強化策について活発な議論が交わされました。2日目は、「アイヌ民族との共生に向けた研修」の一環として、ウポボイ（民族

共生象徴空間）を訪問し、国立アイヌ民族博物館等を見学した後、慰霊施設にて黙祷を行いました。

2日間を通じて、執行部と各部局等の長等とのコミュニケーションが深まり、今後の大学運営に資する、有意義なワークショップとなりました。

（経営企画本部企画課）



講演する村尾国立大学法人支援課長



講演する寶金総長



1日目のグループワークの様子



2日目のウポボイ（民族共生象徴空間）見学の様子



集合写真

令和8年度北海道大学新任技術職員研修を開催

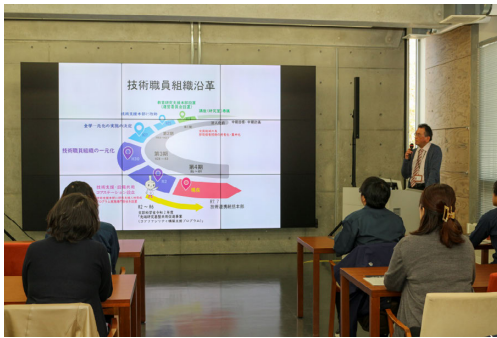
技術連携統括本部事業統括室研修実施専門部会の主催により、4月16日（木）・17日（金）に新任技術職員研修が開催され、対象となる新任技術職員ら7名が参加しました。本研修は、技術職員としての基礎知識の習得や他部局の業務への知見を深め、部局を超えた人間関係を構築することを目的としています。

1日目は技術職員組織に関する講義のほか、工学研究院での職場訪問や実

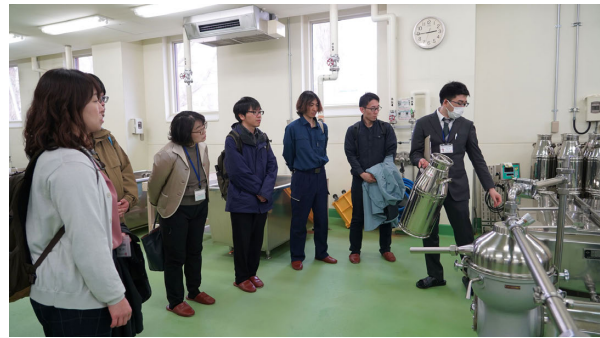
習が行われ、VR技術の体験や電子顕微鏡を用いた実技、ガラス工作などを通じた高度な解析・加工技術を体験しました。2日目は低温科学研究所、情報基盤センター、医学研究院、北方生物圏フィールド科学センターを訪問しました。極低温下での調査環境やスーパーコンピュータ、解剖実習室、食肉・乳製品の加工場、スマート農業の最前線など、学内の様々な技術現場を見学しました。

2日間にわたる研修では、学内の幅広い領域で活躍する技術職員の仕事に触れるとともに、参加者同士の交流も深まりました。多様な専門分野に支えられた教育・研究の現場を知ること、技術職員としての視野を広げる貴重な機会となりました。

（技術連携統括本部）



永井謙芝技術副統括による講義の様子



乳製品加工の解説



研修参加者による集合写真

ハワイ姉妹州サミットで北大ブランドを紹介

5月21日（木）・22日（金）に、ハワイ州ホノルル市で開催された「姉妹州サミット」に、北海道からの依頼を受け、産学・地域協働推進機構が出席し、北大ブランドを紹介しました。

姉妹州サミットは、日本とハワイ州との間で姉妹州・姉妹都市提携を結ぶ自治体が一堂に会し、文化・教育・経済・相互親善などについて意見交換を行うものです。

北海道は本サミット開催に合わせ、5月20日（水）にホノルル市内で道産品及び投資誘致プロモーションを目的とした経済セミナーを行い、同セミナーでは産学・地域協働推進機構の寺内伊久郎副機構長が北海道大学における

産学連携について講演を行いました。

翌21日（木）に開催された姉妹州サミット展示会では、本サミットを契機とした北大ブランド認定商品の海外展開を目指し、北海道が出展するブース内で北大ブランドに関するポスター展示や、商品紹介を行いました。

また、北大ブランド認定商品の「まると道産素材 美瑛とうきび漬」を使用した「美瑛産とうきびの炊き込みご飯（バター風味）」が、北海道札幌市に本店を置き、ハワイ州にも店舗を展開する株式会社どうきゆうが経営する「とんかつ玉藤」において、5月20日（水）～25日（月）の期間限定で提供されました。「とんかつ玉藤」は、

2017年のハワイ出店以来、ハワイで屈指の予約困難なお店として高い支持を得ています。

同店では定食のご飯として炊き込みご飯が提供されていますが、「美瑛産とうきびの炊き込みご飯（バター風味）」は通常よりも多く仕込む必要があるほど、現地のお客様から好評いただきました。

今後、産学・地域協働推進機構は北大ブランド認定商品を通じたブランド力の向上と情報発信に取り組み、日本国内のみならず海外との連携も目指してまいります。

（産学・地域協働推進機構）



講演を行う寺内副機構長



炊き込みご飯を召し上がる現地の方



寺内副機構長（左）と株式会社どうきゆう 中西泰司代表取締役社長（右）

「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！ vol.6」に参加

5月13日（水）と5月16日（土）に、北海道SDGs推進プラットフォーム（事務局：生活協同組合コープさっぽろ）が主催する「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！ vol.6」が開催されました。

「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！」は、毎年1回、幅広い世代の人たちが道内各地の海岸の清掃活動を同時に行うイベントで、今年で6年目を迎えます。

サステナビリティ推進機構はこの取組に賛同し、令和6年度から毎年参加しており、今年度も学内募集に応じて集まった教職員及びその家族、学生グループなど55名が、5月16日（土）に厚田海岸（石狩市厚田区）における清掃活動に参加しました。本学からの

参加者は、札幌キャンパスに集合した後、貸切バスで厚田海岸まで向かい、約1時間清掃活動を行いました。厚田海岸では約300名が参加し、海岸に落ちている一般ごみ、プラスチックごみ、空き缶・びんなどを拾い集め、石狩市のごみ分別ルールに従って仕分けを行いました。

近年、海洋プラスチックごみは深刻な環境問題として世界的に注目されています。適切に処理されなかったプラスチックごみは海へと流出し、海洋生物への影響や生態系の破壊を引き起こすほか、細かく砕けたマイクロプラスチックとして食物連鎖を通じて人間の生活にも影響を及ぼすことが懸念されています。この問題に対処するためには、一人ひとりがごみの削減や適切な

処理を心がけるとともに、地域での清掃活動などを通じて環境保全への意識を高めていくことが重要です。

参加者が協力し合い集中して清掃活動することで、開始前には驚くほど多く見られたごみの大部分を取り除くことができました。また、今回の活動を通じて、海岸に漂着したごみの多くが日常生活に由来するものであることを実感し、環境問題を身近なものとして考える貴重な機会となりました。

サステナビリティ推進機構は、今後も学内及び地域の方々と連携して、環境改善のための意識改革・行動変容に向けて、様々な活動を行ってまいります。

（サステナビリティ推進機構）



厚田海岸での清掃活動の様子



清掃活動で回収されたプラスチックごみ



活動に参加した学生等



「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 講師が講義を実施

各高等学校へ向けて、出張講義を行いました。

受講した生徒、及び教員の皆様から、講義レポートが届きましたのでご紹介します。

日時：2026年2月25日（水）15:15～16:30

会場：札幌創成高等学校

「あなたの行為に潜む『他者』の影響」 教育学研究院 教授 阿部匡樹

人間は他者の存在や視線、行動に対して無意識のうちに反応し、その影響を受けていることについて講義が行われました。講義では、「ミラーシステム」や「カメレオン効果」などの脳科学・心理学の知見の紹介があり、スポーツや集団行動の場で生じる様々な現象の仕組みについて解説がありました。また、実際にいくつかの実験に参

加することで、自分自身がいかにか他者の影響を受けているかを実感することができました。受講した生徒からは、「自分と他者との間には想像以上に認識の差が生じることがわかった」「これまで疑問に思っていた現象の仕組みが理解できて面白かった」などの声が寄せられました。



無意識に受ける他者の影響について話す阿部教授

「有機化学の教科書が変わる!？」 理学研究院 准教授 石垣侑祐

有機化合物の常識を打ち破る研究や、その先に広がる世界について講義が行われました。通常より17%も長い炭素と炭素の単結合の存在を世界で初めて実験的に証明し、様々なメディアで取り上げられたことや、世界で初めて炭素と炭素の1電子結合を創出し、X線構造解析による実験的証明に成功し

たと説明がありました。また、この研究成果が教科書に新たなページを刻む可能性があることが紹介されました。受講した生徒からは、「目に見えない世界を研究することの面白さを知ることができた」「最先端の研究に触れたことで、勉強へのモチベーションが高まった」などの声が寄せられました。



研究の楽しさを話す石垣准教授

「高温に耐える金属材料!」 工学研究院 准教授 米田鈴枝

蒸気タービンやジェットエンジンなど、500℃をはるかに超える高温の過酷な環境で使用される金属材料の耐性を高める研究について講義が行われました。実際に使用されたジェットエンジンのタービンブレードなどの実物も交えながら、高温で使用される金属材料を守るための保護性酸化スケール形成の研究、摩耗にも腐食にも強い合金

開発など、実際の研究内容についてわかりやすく解説されました。生徒からは、「昔から正しいと考えられていた仮説について疑問を抱いて実験を行うなど、探究心が大切なのだと感じた」「金属を開発するためには思っていたよりもはるかに多くの工程を経ていると感じた」などの感想が寄せられました。



生徒たちと会話をしながら講義を進める米田准教授

日 時：2026年2月26日（木）16:00～17:00

会 場：札幌東高等学校

「ロボットとコンピュータによる化学空間探索」 化学反応創成研究拠点 特任教授 原 潤 祐

講義では、量子化学・分子・反応経路など、実際に研究室で取り組んでいることや、大学と大学院との違いなどわかりやすく解説されました。また、研究内容の一部を高校生に実演する機会も設けられ、化学の奥深さについて丁寧な説明がありました。質疑応答では、大学の研究室の様子や、高校時代にどのような準備をしておくべきかな

ど、参加者全員から熱い質問が飛び交いました。受講した生徒からは「化学だけでなく、数学や物理・生物などはもちろん、英語も満遍なく学んでおく必要があるとわかった」「学部選びの参考になった」「初めて量子化学研究の最先端に触れた」といった声が寄せられました。



化学空間探索について解説する原潤特任教授

日 時：2026年3月5日（木）14:45～16:45

会 場：遺愛女子中学校・高等学校

「経内視鏡に使用可能な医療用ハイドロゲルの開発」 北海道大学病院 助教 大野正芳

講義では、北海道の医療事情について、過疎地域の現状についてデータを用いて詳しく説明し、地域医療に携わるメリット・デメリット、日本のがん検診率の低さと検診の重要性について紹介しました。後半では、内視鏡で撮った画像や手技の紹介に加え、内視鏡治療に使用できる開発中のシートやゲルについてわかりやすく解説されまし

た。生徒からは「先生の研究に興味を持ちました。豚を使った実験ではシートが有効に働いていて、近いうちに実用化されるのが楽しみです」「アルギン酸ナトリウムとカルシウムを混ぜると固まり、ゲル状になる現象が医療に応用できることを知り、発想の大切さを改めて感じました」などの感想が寄せられました。



スライドを交えながら大学の研究について話す大野助教

日 時：2026年3月9日（月）16:30～18:00

会 場：札幌第一高等学校

「ベトナムと日本をつなぐ炭素の流れ—キャッサバ澱粉からリジェネラティブ農業を考える」 農学研究院 教授 信濃卓郎

土壌と植物の栄養循環を専門とする信濃教授は、ベトナムのキャッサバ栽培地を舞台に、農地の管理方法を見直すことで土壌中に炭素を蓄積させ、農業生産と地球環境の保全の両立を目指す「リジェネラティブ農業」の研究を紹介しました。講義では、現地での研究の様子や炭素蓄積の重要性についても解説したほか、キャッサバの利用や土壌に炭素を蓄える方法をテーマにグ

ループワークを行い、生徒たちは意見を出し合いながら理解を深めました。参加した生徒からは「作物を育てることが地球の炭素循環と関わっていることを学んだ」「農業の工夫が環境問題の解決にもつながると知り興味が深まった」「炭素クレジットで作物の付加価値を高めることに繋がるのが驚きだった」などの声が聞かれました。



地球環境と農業の関係性について説明する信濃教授

日 時：2026年3月9日（月）16:30～18:00

会 場：札幌第一高等学校

「いま学ぶアイヌ民族の歴史：先住民族と文化的多様性」 アイヌ・先住民研究センター 教授 加藤博文

講義では、先住民族という概念やアイヌ民族の暮らし、現在の法制度における位置付けについて学び、理解を深めました。後半では、世界各地の先住民族の生活や移動の歴史に目を向け、地球規模の視点から、世界の先住民族とアイヌ民族との関わりについて学びました。また、学校で学ぶ歴史の多くは「国家を形成した社会」の立場から描かれており、国家を形成しなかった

社会の歴史を学ぶことも重要だとの話がありました。生徒からは「歴史の見方は一つではなく、教科書のように一つの物語として単純に語るべきものではない」という考え方を初めて知り、とても驚きました。先住民族に対する考え方を見直すとともに、人類の多様性について理解を深めることができました」といった感想が寄せられました。



アイヌの歴史を通して人類の多様性を紐解く加藤教授

日 時：2026年3月16日（月）16:30～17:30

会 場：札幌第一高等学校

「人工知能と先端半導体で未来の医療を実現する」 医学研究院 教授 工藤與亮

個人での使用が当たり前になっているAIについて、最先端技術を人間がどう使うべきかについて話があった後、画像診断学において、読影技術から病理判断、治療方針に至るまで多くの過程でAIが利用されていることについて説明がありました。「学習していないものは判別できない」というAIの特徴を踏まえ、利用者側がリテラシーを持ち正しく使うことによっ

て、体内デバイス、ナノロボット、介護技術などのさらなる進化が期待できることが解説されました。講義の最後には「研究者には目先のゴールも大切だが、遠い目的でもよいからゴールを定めた上で、問題意識を持って課題を明らかにし、解決していく力が大切である」というメッセージが伝えられ、生徒たちは感銘を受けていました。



AI技術の活用方法について説明する工藤教授

アカデミックファンタジスタとは？

北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業、「アカデミックファンタジスタ (ACADEMIC FANTASISTA)」。内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。昨年度は北海道の高校等を対象に31名の教員が講義を実施しました。

北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」でも講義レポート等を随時更新中です。こちらもぜひご覧ください。

・リサーチタイムズ
<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/>

(広報・社会連携本部)



リサーチタイムズ

「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 2025年度の事業を終了～31名の教員が17校で講義を実施

北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業「アカデミックファンタジスタ (ACADEMIC FANTASISTA)」は、内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと、2012年から継続的に実施しています。

2025年度の事業には、31名の教員が参加し、17の中学校・高等学校を対象に出張または北大での体験講義を行い、のべ1,800名の生徒が参加しました。

本事業は2026年度も実施予定です。今後も、北大時報や北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」で講義レポート等を随時更新していきます。こちらもぜひご覧ください。
・リサーチタイムズ

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/>



2025年度参加校

北海道札幌南高等学校、北海道札幌北高等学校、北海道札幌東高等学校、北海道札幌国際情報高等学校、市立札幌新川高等学校、北海高等学校、札幌日本大学高等学校、北海道科学大学高等学校、札幌北斗高等学校、札幌第一高等学校、札幌創成高等学校、北海道富良野高等学校、北海道小樽潮陵高等学校、北海道旭川東高等学校、北海道釧路湖陵高等学校、遺愛女子中学校・高等学校、市立札幌開成中等教育学校

(広報・社会連携本部)

Academic_Fantasista_7d(382x239)_0326

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

ポプラまき木
(北大札幌キャンパス内)

北海道大学
創基150周年記念事業

北海道の高校生と対話する
ACADEMIC FANTASISTA 2025

本事業は、北海道大学と北海道新聞社が連携して実施しています。
2025年度の事業開始は8月を予定しています。出張講義のお申し込みは、高校単位となります。
講義は一部オンラインで実施する場合があります。詳細は下記へお問い合わせください。
北海道新聞社営業局 営業本部 TEL011-210-5167(アカデミックファンタジスタ担当:野島・別所)
受付時間/9:30-17:30(土・日・祝日を除く) 企画制作/北海道新聞社営業局

10代の出会いは、人生の宝物。

ACADEMIC FANTASISTA
2025年度は17の中・高校でののべ1800名の生徒に出張または北大での体験講義を行いました。

「自分の好きを極めている人たちは、楽しそうだなと思った」
高校1年生

「中学や高校で学んできたことは、すべてつながっていると感心した」
高校1年生

「学びへの関心が深まり、見えた」
高校2年生

「疑問を持ち、挑戦し続けることが重要だと実感した」
高校1年生

「自分の進路に希望が、見えた」
高校2年生

2025年度参加講師
原田 祐、木村 勇弘、小崎 亮、猪熊 聖英、渡邊次 学、佐藤 健太郎、山内 太郎、小笠原 亮平、阿部 匡樹、富田 健太郎、徳澤 卓郎、加藤 博文、石垣 尚祐、渡辺 直子、今内 龍、高田 健介、米田 幹枝、水谷 龍明、永木 要一郎、長谷山 美紀、柳澤 達也、長山 隆平、寺田 晋平、大野 正亮、小林 弘明、佐藤 博隆、工藤 雅典、若出 啓亮、尾屋 聖心、酒田 敦子、大塚 謙介(順不明)

2025年度参加校
市立札幌開成中等教育学校、北海道札幌南高等学校、札幌日本大学高等学校、市立札幌新川高等学校、北海道小樽潮陵高等学校、北海道札幌国際情報高等学校、北海道札幌北高等学校、北海高等学校、北海道科学大学高等学校、札幌北斗高等学校、北海道旭川東高等学校、北海道釧路湖陵高等学校、札幌第一高等学校、北海道富良野高等学校、札幌創成高等学校、北海道札幌東高等学校、遺愛女子中学校高等学校(順不明)

過去の講義レポートはこちらをご覧ください。
北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」
<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/>
Facebookアカウント @Hokkaido.univ.taiwa

3月28日(土)の北海道新聞朝刊に掲載された2025年度の報告広告

第2回クラスアワー「学生サポートガイダンス」を実施

4月から6月にかけて、各学部のクラスアワーにおいて、新入生を対象とした「学生サポートガイダンス」を実施しました。学生相談支援センター学生相談ユニットでは、担任教員とともに、新入生が大学生活へ円滑に移行できるよう支援を行っています。

北大生の7割が道外出身者であり、道内出身の学生であっても、札幌近郊以外から進学してきた学生の多くが一人暮らしを始めます。特に西日本出身の学生にとっては、札幌の4月の寒さが地元の冬に近いこともあり、生活環境の変化に戸惑うことがあります。暖房を使う習慣がなく、寒さによって体調や生活リズムを崩してしまったり、

新しい人間関係づくりやサークル活動の機会を逃してしまったりすることもあります。

また、大学では、高校までとは異なり、自ら履修を選択し、計画を立てながら主体的に学んでいくことが求められます。レポート作成や課題への取り組み方、成績評価の仕組みなど、新入生にとって初めて経験することも少なくありません。本ガイダンスでは、生活面だけでなく、大学での学びへの移行や、心身の変化・適応についても説明を行っています。

さらに、「一人でなんでも抱え込まないこと」も大切なメッセージとして伝えていきます。困ったときには、自分

の状態や困りごとを整理し、周囲に相談することも大学生生活を送る上で重要な力になります。家族や地元の友人とのつながりを大切にしながら、新しい人間関係を築いていくことや、学内・学外の相談先を活用することについても紹介しています。

学生相談支援センターでは、学生からの相談をメールで受け付けています。困りごとが大きくなる前に、気軽に相談してほしいと考えています。ぜひ学生の皆様にご案内ください。

(教育イノベーション機構)



ガイダンスの様子

3. 気をつけた方がよい事柄：気候に馴染む

■冬の気分の落ち込みにご注意を

・秋～冬の不調
 状態：やる気の低下、気分の落ち込み、過食、過眠
 原因：日照時間の短さ、雨・積雪での外出のしにくさ等
 対策：日光を浴びる
 家の中でできる気晴らしやストレス発散

■寒暖差に注意
 日中と朝晩とで気温の差が大きく、疲れやすい
 羽織ものや、保温性の高い下着などで調整を

ガイダンス資料の一例



学生相談支援センター案内図

博士人材と企業の情報交換会第61回「化学・バイオ系 赤い糸会」を対面で開催

キャリアデザインセンター博士人材育成ユニット（S-cubic）では、4月24日（金）に学术交流会館で、本年度第1回（通算第61回）「赤い糸会」を開催しました。本会では、特に製薬企業等において早期に企業間の違いや特色を把握することが、博士人材の戦略的なキャリア開拓に極めて有効であるという観点から、昨年度より年度初回を4月に実施しています。本会には、企業には博士人材の高い専門性や総合力を理解いただき、博士人材には企業の研究開発活動や企業における博士人材の活躍状況等を知ってもらうことで、相互理解を深め、視野の複線化及び活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回は、本学の博士人材については10部局37名、連携大学からは博士人材4名（兵庫県立大学、神戸大学）が参加しました。企業については、本会は旅費の負担が必要であるにもかかわらず、参加を希望する企業が多いため、

その中から厳選した13社28名が参加しました。

当日は、教育イノベーション機構長の網塚 浩理事・副学長による開会挨拶、キャリアデザインセンター長の吉原拓也教授による趣旨説明の後、企業から業界動向や博士人材の活躍状況等の紹介が行われ、その後、博士人材の自己紹介ポスター発表、企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行われました。情報交換交流会では、キャリアデザインセンター副センター長の亀野 淳教授から開会の挨拶があり、学生のポスター発表に関する表彰を行いました。

開催後、企業からは、「今回初めての参加でしたが、本当に学生さんが積極的に参加してくれていて、とても良かった」「どの方も民間企業に入られてからも仕事を行う能力があると感じた」との声をいただきました。

また参加した博士人材からは、「近い距離でたくさんの企業の方とお話し

できる大変貴重な経験をさせていただき、求められる能力や、アピールすべきポイントについての理解が深まった」「人事の方や研究職の方とたくさんお話しできる機会はないので、このような場を設けていただきとても貴重な経験になった」といった嬉しい声も聞かれました。

キャリアデザインセンターでは本会のほか、Advanced COSA、J-window（個別キャリア相談）、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップや、コンソーシアムの連携大学である名古屋大学等が運営するプログラムの活用などによって、博士人材の実践力を高めております。

興味のある方はキャリアデザインセンターのウェブサイトを是非ご覧ください。

<https://fohred.synfoster.hokudai.ac.jp/>

（教育イノベーション機構）



網塚理事・副学長の開会挨拶



企業ブース交流会の様子



博士人材ポスター発表の様子

企業人事担当者が語る「北大生採用のリアル」 オンラインパネルディスカッションを開催

キャリアデザインセンターでは、5月8日（金）に「企業人事担当者が語る『北大生採用のリアル』」を開催しました。本ガイダンスはインターンシッププレ研修の特別企画として、株式会社CIRCLE CONNECTの前田健郎氏の進行のもと、4社の人事担当者にご登壇いただき、パネルディスカッション方式で「北大生採用について」をテーマにオンラインで配信し、学部・大学院を問わず、120名の学生が参加しました。

企業側からは、文系学生・理系学生の採用動向、研究・開発職のキャリアパス、さらには北大OB・OGの配属先や活躍の様子など、実際の採用現場に

基づいた具体的な情報が提供されました。また、「北大生に期待する資質」や「選考時に重視するポイント」に関する率直な意見もお話いただきました。企業担当者からは、「論理的思考力と粘り強さ」「研究活動で培った課題解決力」など、北大生ならではの強みが評価されていることが紹介されました。一方で、「自己表現力や主体性の発信がやや控えめ」といった課題も指摘され、学生にとっては今後の自己成長に向けた貴重な示唆となりました。

ガイダンスの後半は40分以上にわたって質疑応答を行い、終了時間を超えても学生から質問があがりました。

イベント後のアンケートでは、「企業の本音を聞くことができ視野が広がった」「就職活動に向けた準備の方向性が明確になった」といった声が多く寄せられ、参加者の満足度は非常に高い結果となりました。

キャリアデザインセンターでは、今後も学生のキャリア形成を支援するため、企業との連携を強化し、実践的な学びの機会を提供していきます。

<https://cc.academic.hokudai.ac.jp/>

（教育イノベーション機構）

実施内容

日時：2026年5月8日（金）18:30～20:30

会場：オンライン配信及びオンデマンド配信

※オンデマンド配信について学生はキャリアデザインシステム（旧：就職支援システム）で視聴可能

パネリスト：NTTドコモソリューションズ株式会社 土岐 遥 氏

川崎汽船株式会社 住田季穂 氏

日本ハムキャリアコンサルティング株式会社 渡辺啓佑 氏

株式会社三菱総合研究所 俵谷 光 氏

企画・当日進行：株式会社CIRCLE CONNECT 前田健郎 氏

主催：教育イノベーション機構キャリアデザインセンター



配信会場で意見を交わす登壇者



当日のパネルディスカッション講演配信の様子

インターンシップ選考対策講座（文系編・理系編）を開催

キャリアデザインセンターでは、5月14日（木）・15日（金）に「インターンシップ選考対策講座（文系編・理系編）」を開催しました。本ガイダンスは、企業の採用担当者によるトークセッションを通じて、インターンシップ選考及び早期選考に向けた実践的な準備を支援することを目的として実施したもので、文系学生編には33名、理系学生編は21名の学生が参加しました。

当日は、株式会社CIRCLE CONNECTの前田健郎氏の進行のもと、文系編では株式会社ニトリホールディングスの

川俣諒斗氏、理系編では古河電気工業株式会社の板垣祐輝氏に登壇いただき、対面形式で開催しました。ガイダンスでは、エントリーシートや面接など、選考における基本的な流れや評価ポイントについて解説が行われました。

続くトークセッションでは、インターンシップと本選考の違い、各選考段階で企業が注目する観点、北大生に対する印象、今後求められる能力や経験などについて具体的な説明がなされました。

ガイダンス終了後のアンケートで

は、「選考の流れや評価ポイントを具体的に理解できた」「企業目線の話を知ることができた」「今後やるべきことが明確になった」などの声が多く寄せられ、参加者の満足度は非常に高い結果となりました。

キャリアデザインセンターでは、今後も学生のキャリア形成を支援するため、企業との連携を強化し、実践的な学びの機会を提供していきます。

<https://cc.academic.hokudai.ac.jp/>

（教育イノベーション機構）

実施内容

日 時：文系学生編 2026年5月14日（木）18:30～20:30
理系学生編 2026年5月15日（金）18:30～20:30
会 場：北海道大学クラーク会館3階 大集会室
参加企業：文系学生編 株式会社ニトリホールディングス 川俣諒斗 氏
理系学生編 古河電気工業株式会社 板垣祐輝 氏
企画・当日進行：株式会社CIRCLE CONNECT 前田健郎 氏
主 催：教育イノベーション機構キャリアデザインセンター



会場の様子



文系学生編に登壇の川俣氏



理系学生編に登壇の板垣氏

キャリアデザインセンター主催 業界研究ガイダンス 「食品業界編」「総合商社編」を開催

キャリアデザインセンターでは、5月21日（木）・22日（金）にクラーク会館にて、インターンシッププレ研修として業界研究ガイダンスを開催しました。本ガイダンスは、学生が各業界への理解を深め、今後のキャリア形成に役立てることを目的とした企画であり、各業界の現役社員を講師とし、株式会社マイナビの小島大樹氏の司会進行のもと実施しました。学部・大学院を問わず、食品業界編には105名、総合商社編は95名の学生が参加しました。

5月21日（木）の「食品業界編」では、Umios株式会社の伴田友香氏とキリンホールディングス株式会社の新森彰信氏より、食品業界の最新トレンドや今後の展望、各社の事業戦略、そして文系・理系それぞれのキャリアパスについて紹介がありました。

5月22日（金）の「総合商社編」では、伊藤忠商事株式会社の野村航大氏と住友商事株式会社の重富正裕氏より、総合商社業界の仕事内容や今後の展望、自社の強みなど各社の特徴につ

いて紹介がありました。

両日のガイダンスの後半は座談会形式で実施され、学生からの質問に企業担当者が直接回答する時間が設けられました。「食品業界で働くやりがいとは?」「総合商社での海外赴任を含めたキャリア形成は?」「インターンシップで重視されるポイントは?」といった実践的な質問が飛び交い、企業のリアルな声を聞く貴重な機会となりました。

参加学生からは、「業界の全体像と企業ごとの違いがよく分かった」「直接質問できたことで、企業との距離が縮まった」といった声が多く寄せられ、今後の企業研究やインターンシップ準備に向けた有意義な時間となったことがうかがえました。

キャリアデザインセンターでは、今後も学生のキャリア形成を支援するため、企業との連携を強化し、実践的な学びの機会を提供していきます。

<https://cc.academic.hokudai.ac.jp/>

(教育イノベーション機構)



会場の様子



食品業界編に登壇の新森氏（左）と伴田氏（右）



総合商社編に登壇の重富氏（左）と野村氏（右）



座談会の様子

実施内容

「業界研究ガイダンス～食品業界編～」

日 時：2026年5月21日（木）18:30～20:30

登 壇：Umios株式会社 伴田友香 氏
キリンホールディングス株式会社 新森彰信 氏

「業界研究ガイダンス～総合商社編～」

日 時：2026年5月22日（金）18:30～20:30

登 壇：伊藤忠商事株式会社 野村航大 氏
住友商事株式会社 重富正裕 氏

(両日)

会 場：クラーク会館 講堂・大集会室

企画・主催・当日運営：キャリアデザインセンター

運営協力：株式会社マイナビ

■ 部局ニュース

低温科学研究所の青木 茂教授らが参加した 第67次南極地域観測隊が無事帰国

低温科学研究所の青木 茂教授は第67次南極地域観測隊に隊長として参加していましたが、4月6日（月）に無事帰国しました。

本観測隊には、当研究所から西岡純教授、小野数也技術専門職員、西野沙織技術補佐員、村山愛子研究員も参加し、現地において各種観測及び研究活動に従事しました。

4月24日（金）には、東京明治記念館にて、「南極地域観測隊帰国歓迎

会」が開催され、青木教授からは、「昭和基地周辺の海水状態は厳しいものでしたがチーム一丸で物資輸送を完遂するとともに、南極まで二往復してサイエンスの目標を期待以上に達成することができました。国内からの手厚いサポートに感謝します。」という挨拶がありました。

同歓迎会においては、本観測隊に参加した小野技術専門職員が、通算4回にわたり、南極地域観測に隊員として

参画し、多大な貢献を果たしてきたことが認められ、国立極地研究所長より表彰を受けました。

また、青木教授は、4月28日（火）には、松本洋平文部科学大臣を表敬訪問し、南極地域観測の活動報告を行いました。

（低温科学研究所）



南極地域観測隊帰国歓迎会で挨拶をする青木教授



国立極地研究所より表彰を受けた小野技術専門職員（中央）と青木教授（右）及び西岡教授（左）

環境健康科学研究教育センターがWHO本部訪問及びWHO協力センター・グローバルフォーラムに参加（WHO連携国際環境健康拠点の構築）

環境健康科学研究教育センターは、WHO協力センター（WHO CC）としての国際連携事業の一環として、4月7日（火）～9日（木）にフランス・リヨンで開催された「第1回WHO協力センター・グローバルフォーラム」に参加し、国際連携部門長のアイツバマイゆふ特任准教授と、副部門長の池田敦子教授が出席しました。

フォーラム参加に先立ち、両名はスイス・ジュネーブのWHO本部を訪問し、当センターのWHO CC活動テーマである「環境化学物質による健康障害

の予防」について、Children's Health担当のブルーン・ドリッセ博士と今後の協働方針を協議しました。また、同分野のWHO CCである米国オールバニ大学との意見交換も行き、国際的な連携強化に向けた具体的な協働の可能性を確認しました。

リヨンでのグローバルフォーラムでは、世界80か国以上のWHO CCが集まり、国際的な健康課題に対する協働のあり方や、WHOの重点計画（GPW14）に向けた貢献について議論が行われました。当センターは、環境健康分野に

おける専門性を活かし、国際的なネットワーク形成と情報共有に積極的に参加しました。

今回の参加を通じ、センターの重点領域であるワン・ヘルス及びプラネタリーヘルスに関する国際協力の重要性を再確認するとともに、国内外のWHO CCとの連携強化に向けた新たな基盤を築くことができました。今後も、科学・教育・国際協力を柱に、地域から世界へと貢献を広げていきます。

（環境健康科学研究教育センター）



集合写真 Arrival at the High-level opening sessions of WHO CC Forum (© WHO/Photographer)

看護の日のイベントを開催

5月12日（ナイチンゲールの生誕日）は、「看護の日」として制定されています。北海道大学病院では、毎年「看護の日」を含む一週間を看護週間としており、今年度は、5月8日（金）～14日（木）の日程で「看護の心をみんなの心に」をメインテーマに看護の大切さを感じていただけるよう、様々な催しを開催しました。

期間中は、患者さんから寄せられた「看護師に届けたい思い」を病棟などに展示しました。また、5月12日（火）には「ふれあい看護体験」を実施し、

札幌近郊の高等学校から高校生15名が参加して看護の仕事を体験しました。高校生たちは、病棟での体験を通して看護の現場に触れ、理解を深める時間となりました。

同日の夕方には、アメニティホールで「第32回看護の日の夕べ」を開催しました。南須原康行病院長の挨拶に続き、来場した約130名の患者さんに向けた看護師によるピアノ演奏のほかクイズ大会などが催されました。会場の様子は入院病室にも放映され、多くの患者さんが楽しんでいました。ホール

に集まった患者さんたちは、看護師と一緒にダンスに参加するなど、笑顔があふれる温かいひとときとなりました。最後に、城石陽子看護部長からの閉会の挨拶があり、和やかな雰囲気の中、会は幕を閉じました。

看護週間に合わせてのこれらの催しは今年で32回目を迎え、看護の大切さを共有する貴重な機会として院内にしっかりと根付いています。

（北海道大学病院）



看護師によるピアノ演奏



患者さんとのダンス



患者さんとのクイズ大会



城石看護部長挨拶

■表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
8.5.11	インド工科大学ボンベイ校 Sudarshan Kumar 国際担当責任教授	今後の交流に関する懇談
8.5.12	駐日ベルギー王国大使館 Antoine Evrard 特命全権大使	今後の交流に関する懇談及び講演会
8.5.13	駐日ブルガリア共和国大使館 Marieta Arabadjieva 特命全権大使	今後の交流に関する懇談



Antoine Evrard 駐日ベルギー王国大使（左から4人目）



Marieta Arabadjieva 駐日ブルガリア共和国大使（左から2人目）

（国際部国際連携課）

■人事

令和8年5月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (辞職)	美 多 剛	総合イノベーション創発機構化学反応創成研究拠点教授

令和8年6月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院理学研究院教授	丹 羽 伸 介	東北大学准教授

新任教授紹介

令和8年6月1日付



理学研究院教授に

に お しんすけ
丹羽 伸介 氏

化学部門有機生命科学分野

生年月日

昭和53年12月26日

最終学歴

東京大学大学院医学系研究科医学博士課程修了 (平成19年3月)
博士 (医学) (東京大学)

専門分野

分子細胞生物学分野

資料

在籍学生数（令和8年5月1日現在）

- (注) 1 () 内は女子の内数、〈 〉内は女子の比率。
 2 [] 内は2年次編入学定員で外数。
 3 [] 内は3年次編入学定員で外数（工学部は高専卒業者の受入れ）。
 4 以下の表は、すべて外国人留学生数を含む。

■学部

学部等名	入学定員	在籍者数							研究生	聴講生	科目等履修生	特別聴講生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人 [人]	一人	191人	204人	230人	一人	一人	625人 (237<37.9%)	23人	4人	5人	28人	685人 (271<39.6%)
教育学部	50 [10]	—	50	75	69	—	—	194 (83<42.8)	5		2	1	202 (87<43.1)
法学部	200 [10] [10]	—	218	227	239	—	—	684 (231<33.8)		3		6	693 (234<33.8)
経済学部	190	—	197	207	222	—	—	626 (146<23.3)	7			10	643 (151<23.5)
理学部	300	—	309	312	371	—	—	992 (236<23.8)		2	2	8	1,004 (237<23.6)
医学部	280 [5]	—	311	301	278	117	104	1,111 (502<45.2)	1				1,112 (502<45.1)
歯学部	53	—	58	56	54	55	52	275 (119<43.3)					275 (119<43.3)
薬学部	80	—	81	87	91	27	29	315 (133<42.2)	1		1		317 (133<42.0)
工学部	720 [10]	—	735	757	813	—	—	2,305 (326<14.1)		3	1	20	2,329 (330<14.2)
農学部	215	—	212	214	237	—	—	663 (249<37.6)	2	3		7	675 (252<37.3)
獣医学部	40	—	42	44	43	39	41	209 (109<52.2)		1			210 (109<51.9)
水産学部	215	—	234	208	223	—	—	665 (143<21.5)	7			8	680 (148<21.8)
現代日本学 プログラム課程	—	—	17	11	18	—	—	46 (18<39.1)					46 (18<39.1)
総合教育部	—	2,677	—	—	—	—	—	2,677 (802<30.0)					2,677 (802<30.0)
合計	2,528 [15] [30]	2,677	2,655	2,703	2,888	238	226	11,387 (3,334<29.3)	46	16	11	88	11,548 (3,393<29.4)

※学部の入学定員は、学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

■研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	特別聴講学生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合計
低温科学研究所	1人	人	人	一人	一人	1人 (0< 0.0)
電子科学研究所	3	2		—	—	5 (1< 20.0)
遺伝子病制御研究所	1			—	—	1 (0< 0.0)
触媒科学研究所	2	3		—	—	5 (0< 0.0)
スラブ・ユーラシア研究センター	1			—	—	1 (1<100.0)
情報基盤センター	1			—	—	1 (0< 0.0)
アイソトープ総合センター	1			—	—	1 (1<100.0)
北方生物圏フィールド科学センター	9			—	—	9 (5< 55.6)
アイヌ・先住民研究センター	1			—	—	1 (1<100.0)
教育イノベーション機構			64	65	11	140 (84< 60.0)
合計	20	5	64	65	11	165 (93< 56.4)

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。
 生命科学学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数。
 医学院の修士課程1年次の上段は公衆衛生学1年コースの学生数。

■大学院

研究科名	修士課程(博士前期)				専門職学位課程				博士課程(博士後期及び博士一貫)					研究 生	聴 講 生	科 目 等 履 修 生	特 別 研 究 生	特 別 聴 講 生	合 計		
	入学 定員	在籍者数			入学 定員	在籍者数			入学 定員	在籍者数											
		1年次	2年次	小計		1年次	2年次	3年次		小計	1年次	2年次	3年次							4年次	小計
法学研究科	20人	12人	22人	34人 (13(38.2%))	50人	24人	14人	12人	120人 (44(36.7%))	15人	7人	3人	10人	一人	20人 (4(20.0%))	2人	人	1人	1人	4人	182人 (65(35.7%))
水産科学院	114	92	126	218 (55(25.2))	—	—	—	—	—	19	27	29	25	—	81 (17(21.0))	—	—	—	—	7	306 (76(24.8))
水産科学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	4 (3(75.0))
環境科学院	159	165	155	320 (103(32.0))	—	—	—	—	—	63	60	66	95	—	221 (81(36.7))	—	1	—	7	—	549 (187(34.1))
地球環境科学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—	—	—	—	8 (4(50.0))
理学院	127	148	146	294 (47(16.0))	—	—	—	—	—	55	52	50	66	—	168 (24(14.3))	—	—	1	2	1	466 (71(15.2))
理学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	—	—	—	—	13 (5(38.5))
薬学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0 (0(0.0))
農学院	142	166	181	347 (130(37.5))	—	—	—	—	—	36	35	41	50	—	126 (49(38.9))	—	—	—	2	—	475 (179(37.7))
農学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	5 (4(80.0))
生命科学院	132	122	129	251 (108(43.0))	—	—	—	—	—	44	48	45	78	—	199 (62(31.2))	—	—	1	7	—	458 (172(37.6))
先端生命科学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	9	5	4	10	—	—	—	—	—	—	2 (1(50.0))
教育学院	45	42	48	90 (52(57.8))	—	—	—	—	—	21	17	12	68	—	97 (54(55.7))	—	—	2	2	1	192 (109(56.8))
教育学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	2 (2(100.0))
国際広報メディア・ 観光学院	47	47	54	101 (75(74.3))	—	—	—	—	—	12	15	15	42	—	72 (43(59.7))	—	1	1	1	5	181 (124(68.5))
メディア・コミュニ ケーション研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—	10 (8(80.0))
保健科学院	40	44	43	87 (59(67.8))	—	—	—	—	—	10	9	9	19	—	37 (19(51.4))	—	—	—	1	—	125 (78(62.4))
保健科学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	—	—	—	—	9 (3(33.3))
工学院	326	384	387	771 (101(13.1))	—	—	—	—	—	69	77	79	130	—	286 (50(17.5))	—	—	—	8	7	1,072 (155(14.5))
工学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	—	—	—	—	13 (2(15.4))
総合化学院	129	160	156	316 (66(20.9))	—	—	—	—	—	38	45	45	50	—	140 (31(22.1))	—	—	—	8	—	464 (98(21.1))
経済学院	35	33	35	68 (19(27.9))	20	24	18	—	42 (13(31.0))	8	7	8	17	—	32 (12(37.5))	—	—	—	2	1	145 (46(31.7))
経済学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0 (0(0.0))
医学院	20	2	24	44 (19(43.2))	—	—	—	—	—	90	114	91	104	205	514 (132(25.7))	—	—	—	4	—	562 (154(27.4))
医学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	4 (2(50.0))
医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	—	6 (0(0.0))	—	—	—	—	—	6 (0(0.0))
歯学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	54	38	38	32	162 (79(48.8))	—	—	—	—	—	162 (79(48.8))
歯学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1 (0(0.0))
獣医学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	14	16	11	20	61 (33(54.1))	—	—	—	—	—	61 (33(54.1))
獣医学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	4 (0(0.0))
医理工学院	12	13	13	26 (6(23.1))	—	—	—	—	—	5	4	5	11	—	20 (4(20.0))	—	—	—	—	—	46 (10(21.7))
国際感染症学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	24	29	17	16	86 (38(44.2))	—	—	—	5	—	91 (42(46.2))
国際食資源学院	15	15	15	30 (13(43.3))	—	—	—	—	—	6	8	7	13	—	28 (15(53.6))	—	—	—	1	—	59 (28(47.5))
文学院	90	107	117	224 (105(46.9))	—	—	—	—	—	35	45	36	95	—	176 (89(50.6))	—	—	—	2	3	410 (200(48.8))
文学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	—	—	—	—	9 (4(44.4))
文学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	4 (3(75.0))	—	—	—	—	—	4 (3(75.0))
情報科学院	196	208	217	425 (43(10.1))	—	—	—	—	—	43	51	38	55	—	144 (19(13.2))	—	—	—	—	7	576 (63(10.9))
情報科学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	7 (1(14.3))
情報科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1 (0(0.0))	—	—	—	—	—	1 (0(0.0))
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	31	43	—	74 (28(37.8))	—	—	—	—	—	—	—	1	3	—	1	79 (31(39.2))
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	3 (2(66.7))
合計	1,649	1,778	1,868	3,646 (1,014(27.8))	100	121	103	12	236 (85(36.0))	643	722	667	1,003	289	2,681 (858(32.0))	96	5	12	63	27	6,766 (2,044(30.2))

(学務部学務企画課)

令和8年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

令和8年5月1日現在

部局名	国費留学生		外国政府派遣留学生		私費留学生		合計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文部科学省	4 (2)	1			2 (2)	46 (28)	53 (32)
教育学部	1					6 (4)	7 (4)
法政大学	1					6 (3)	7 (3)
経済学部						17 (5)	17 (5)
理学部	12 (3)				20 (8)	8 (1)	40 (12)
薬学部					1		1
医学部						1	1
工学部	7				6 (2)	14 (3)	27 (5)
農学部					1 (1)	6 (2)	7 (3)
獣医学部							
水産学部		1 (1)			5 (2)	8 (2)	14 (5)
現代日本学プログラム課程	7 (3)				37 (14)		44 (17)
総合教育	14 (8)				23 (11)		37 (19)
合計	46 (16)	2 (1)	0	0	95 (40)	112 (48)	255 (105)

大学院等

部局名	国費留学生			外国政府派遣留学生			私費留学生				合計
	修士課程	博士課程	研究生等	修士課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
法学部	2						15 (9)		11 (3)	4 (1)	32 (13)
水産学部	1 (1)	4 (1)			1	5 (3)	9		18 (5)	2 (1)	40 (11)
環境学部	10 (4)	23 (8)	2		1 (1)	1 (1)	63 (31)		86 (40)	3 (2)	189 (87)
地理学部	4 (4)	9 (3)			1		18 (7)		37 (8)	2	71 (22)
理学部			2 (1)							9 (2)	11 (3)
農学部	9 (8)	15 (12)					24 (15)		23 (14)	2	73 (49)
生命科学部	7 (4)	22 (9)			2		23 (9)		42 (19)	4 (1)	100 (42)
先端生命科学部										2 (1)	2 (1)
教育学部			2 (2)		1 (1)		22 (16)		16 (13)	2 (1)	41 (31)
国際広報メディア・観光学部	2 (1)	1 (1)					70 (55)		41 (24)	6 (6)	120 (87)
メディア・コミュニケーション学部										10 (8)	10 (8)
保健学部	2 (2)	1 (1)					3 (2)		6 (2)	1	13 (7)
保健学部										7 (3)	7 (3)
工学部	18 (5)	25 (8)			3 (1)	1	61 (11)		103 (25)	12 (3)	223 (53)
総合学術院		1			3 (3)		38 (7)		39 (12)	7 (1)	88 (23)
経済学部	1	1					50 (16)	5 (2)	20 (11)	3 (2)	80 (31)
経済学部		3 (1)							64 (33)	4 (3)	79 (40)
医学部					1		7 (3)			2 (1)	2 (1)
歯学部									40 (24)		40 (24)
獣医学部		15 (11)								12 (4)	27 (15)
文学部	2 (2)	8 (7)					51 (31)		52 (29)	5 (3)	118 (72)
文学部			1							2 (1)	3 (1)
情報学部	3	6			3		30 (8)		37 (8)	7 (1)	86 (17)
情報学部										4 (1)	4 (1)
国際感食栄養学部		19 (13)					4 (2)		8 (3)		12 (5)
国際感食栄養学部	1 (1)	3 (2)					2 (2)		33 (12)		52 (25)
公共政策学部								13 (7)		1 (1)	14 (8)
公共政策学部			1 (1)							2 (1)	3 (2)
低温科学研究所										1	1
低温科学研究所			1 (1)							3	4 (1)
遺伝子制御研究所										1	1
触媒科学研究所										5	5
情報基盤センター										1	1
アイソトープ総合センター										1 (1)	1 (1)
北方生物圏フィールド科学センター			2 (2)							6 (2)	8 (4)
アイヌ先住民研究センター			1 (1)								1 (1)
教育イノベーション機構										63 (35)	63 (35)
合計	62 (32)	156 (77)	12 (8)	0	16 (6)	7 (4)	490 (224)	18 (9)	698 (295)	208 (93)	1,667 (748)

日本語研修生等

高等教育推進機構	日本語・日本文化研修生		日本語研修生		合計
	国費	私費	国費	私費	
	18 (13)	47 (31)	11 (4)	0 (0)	76 (48)

外国人留学生総数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

学部留学生	大学院留学生			研究生等	日本語・日本文化研修生 日本語研修生	留学生総数	外国人学生 （「留学」以外）	留学生及び外国人学生 総計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
141 (56)	552 (256)	18 (9)	870 (378)	341 (154)	76 (48)	1,998 (901)	51 (24)	2,049 (925)

* () 内は女子を内数で示す

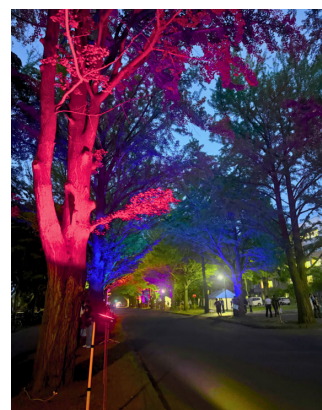
* 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む

* 研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

(学務部国際交流課)

編集メモ

- 6月5日（金）～7日（日）に開催された第68回北大祭は、大変多くの方々にご来場いただきました。期間中には一時的に雨も見られましたが、模擬店グランプリやイチョウ並木のライトアップも行われるなど、各種企画が催され、キャンパスは3日間にわたりにぎわいを見せました。





キャンパス懐古 15 農学部本館屋上から望んだ農場（1989年6月）

農学部本館の屋上から西側の農場を撮影しています。写真奥には前年に高架化したばかりの鉄道線路が桑園駅の方面へと続いています。このころは、札幌キャンパス南西部も、高架まで広々と農場が広がり、作付けの進む畑地や葉を広げる果樹が目立ちます。

現在、高架の手前には、外国人研究者のための家族用・単身用の宿舎、インターナショナルハウス（1997

年）が建ち並んでいます。また、石山通を挟んださらに手前には大学院国際食資源学院（2017年）の建物が建っています。ここ40年ほどの札幌キャンパス、そしてその周辺の様変わりには顕著です。

（大学文書館・北海道大学150年史編集室）